

第3回 β本町橋・水辺の賑わい拠点づくり会議

日時：令和5年3月3日(金)13:00～14:30

場所：大阪産業創造館6F会議室A B

出席者：橋爪委員（座長） 栗本委員 谷川委員 玉川委員 加藤委員 能西委員 湍谷委員 大江委員 伴委員

欠席者：西口委員

○事務局

（大阪市経済戦略局）大野部長、和田課長、山本担当係長、森内係員

（大阪市建設局）麻田課長、松原担当係長、柳澤担当係長、深谷係員

○事業者

大希産業株式会社、一般社団法人水辺ラボ、株式会社グロリア、有限会社リゾートバンク

（事業者事業説明後 各委員からのご意見、ご質問）

【栗本委員】

コロナ禍や厳冬にも関わらず、数々の事業に取り組まれ、地域の方との連携も含め、積極的に挑戦を重ねられたことに敬意を表したい。

利用者は地元の方が多いのか、また、これから観光客やインバウンドが増えていくことを見据えたか計画を考えているのか。

無償の事業が多いが、何を有償にするのか、また、その部分の単価の見直しが必要ではないか。これからお客様が増えてくる中で、少し収益を増やしていく必要があると思う。

【水辺ラボ】

利用者のご質問に関してはほとんどが地域、もしくは大阪市近隣の方々である。

視察などで東京や九州からも団体が来られていて、メディアで全国的な雑誌に取り上げていただくこともある。

インバウンドに関しての計画はこれからだが、学びやレクチャーといった我々の持っているコンテンツを事業として提供する取り組みを始めている。

欧米では、滞在型や地域密着型の観光コンテンツのニーズがあるので、実現性があるのではないか。

【リゾートバンク】

コロナ禍においては、利用者は近所の方がとても多かった。遠くに行くことができなくて仕方なく来たら意外と面白く、口伝で評判になった。

最近は旅行会社との提携により、東北、関東、九州の方の利用もあり、全国へ徐々に広がっている。インバウンドも増えており、対応できるスタッフを採用する予定。

【水辺ラボ】

単価の見直しについては、公益事業と収益事業の二段階の料金設定をしている。公益事業は、閑散時を生かして実施しているので、施設利用が増えていくと活動の場がなくなるため、バランスが難しい。

大きな方向性としては、飲食が充実し、パーティー的に提供できるものが増え、売り上げが増えるというのが

目標。何とか収益を確保しながら事業を成り立たせていきたい。

【渋谷委員】

毎週日曜日に顔を出すようにしている。平日の様子をあまり見たことがなかったので、報告書を見ると、平日はかなり一生懸命頑張っておられると感じた。

レンタルルームで実施しているイベントについては、クローズのイベントなのか、オープンなイベントなのかわからず、入りづらい。

【水辺ラボ】

ご指摘の通りはっきり掲示した方がいいと思った。不特定の人に参加してもらいたいイベントで利用される方は、公園にあるということで、気軽に入ってきてくれることを期待して借りられる方が多いので、現場でわかるようにしていきたい。

【大江委員】

地域の方や新しくチャレンジしたい方を巻き込んで事業をしていて、勉強になった。

以前参加したβグリルは味も良く、料理にテーマを持っていたので、今後も楽しみにしたいと思う。

船の係留については、開業前には船の引き波によって係留船が破損するのではないかという心配があったが、特に今までそのような事故はないのか。

【グロリア】

舟運事業者には徐行をお願いしている。揺れたり船が破損したりという事故は起こっていない。

【伴委員】

コロナの中でいろんなことにチャレンジし、にぎわいを創ってこられたことにすごく感動した。

現地で感じたが、施設が坂の下にあって入りづらい印象だった。

外にテーブルを置いて座れるようにしていく計画とのことだが、お客が見えると客が客を呼ぶことにつながるので、これからもっとにぎやかになっていくことに期待が持てる。

今後、インバウンド等を呼び込まれた時に、少し地域と摩擦が生じてくるかもしれないので、その対策はしておいたほうがいい。

【能西委員】

スタッフはみんな一生懸命やっている。

本町橋の下は今後歩いて通れるようになるのか。

【麻田課長】

本町橋と農人橋間の護岸の工事を実施予定。完成時には、本町橋の下を通行できる形態にしていくよう考えているところ。工事は今年契約し、再来年にかけて順次進めていく。方向性としては歩道として開口していくことを考えている

【加藤委員】

公益事業が柱と割り切って、収益が出なくてもいいのかという心配がある。

土日の人が増えてきた中で、近所の人があまりいないと思っていた。告知が全部、ネットでの空中戦で近所の人には伝わりにくいので、スタッフと相談し、町会長にお願いして手配り用のチラシを作った。区役所での集会でも認知度が低く、近所への告知が手薄だと感じている。

長期的にβ本町橋が成功するかしないかというのは、地域に根づいた施設になるかどうかだと思う。イベント中心の人集めは実施する側が大変なので、春になったらβ本町橋に桜を見に行こうというように、自然と人が集まるような、近所の暮らしに根差した施設になれば成功すると思う。

【水辺ラボ】

地域の方を紹介していただき、本当にありがたい。

収益について、今年度より公益事業はすべて無償ではなく、一部有償化している。ただ、それが収益の柱になっていくことはないので、他の収益も上げながらチャレンジし続けるという形。

【玉川委員】

ご苦労されながら各種事業を展開されており素晴らしい。

私もいくつかの事業に参加したが、水都大阪コンソーシアムと連携したイベントのように子どもが参加できる企画や、ウィスキーナイトのような常連客が付くような企画がいくつかあると、β本町橋により多くの人が集まるのではないかなと思う。

ランチを提供していたカフェがだんだん卒業して、少し寂しくなっていたので、常設のカフェをされることで入りやすい雰囲気になっていくのではないかなと思う。

このあたりは企業で働く人もたくさんいるので、そういった方々のファンも増やしていただけたらと思う。

【谷川委員】

加藤委員より収益についてのご発言があったが、私も全く同じことを思っていて去年も申し上げたと思う。

このコロナ禍よく頑張ったのは十分わかっているが、しっかりと費用とその費用を埋める収益をどうするのかを考えていかなければ、あと18年の事業計画の中で破綻をきたしてしまう。当初計画での収益の柱が今はあまりなくなっている中で、イベントで収益を得るというのは疑問。

レンタルスペースの稼働率も低いので、稼働率の高い大阪産業創造館と提携して、顧客を得るようなこともできるといい。

地域の連携がベースであり、お掃除活動などに新規でどれだけ地域の方が来てくれるかが重要だと思うので、チラシをポスティングすることも考えているならば、お得なチケットやクーポンを活用するような工夫を考えてほしい。地域のかさ上げと、収益構造を立て直していただくことをお願いしたい。

【橋爪委員】

公益事業という言い方は、鉄道やガス、水道などの、国民全体を支える基盤的なインフラという概念になるので、「公益目的事業」と言った方がよい。

観光客などが増えてきた時に、1日当たりの公園利用者数をサンプルでいいので1回きっちりってみてはどうか。また、本町橋周辺エリア全体のポテンシャルを高めていっていただきたい。護岸の一部撤去が始まること

からも、周辺のお店とできるだけ連携することを今後考えていただきたい。

【橋爪委員】

一通りご意見いただいた。多岐にわたる意見をまとめることはなかなかできないが、コロナが収束に向かう中、これから本格的に多くの方に訪れていただく施設になればと思っている。この場の全員がそれを期待している。大阪の新しい名所になってほしい。毎年恒例で多くの人が集まるような催し物が続々と生まれていけばいいと思う。

以上